

M&Aと資金調達の実務を学ぶ

2025年 夏季日程

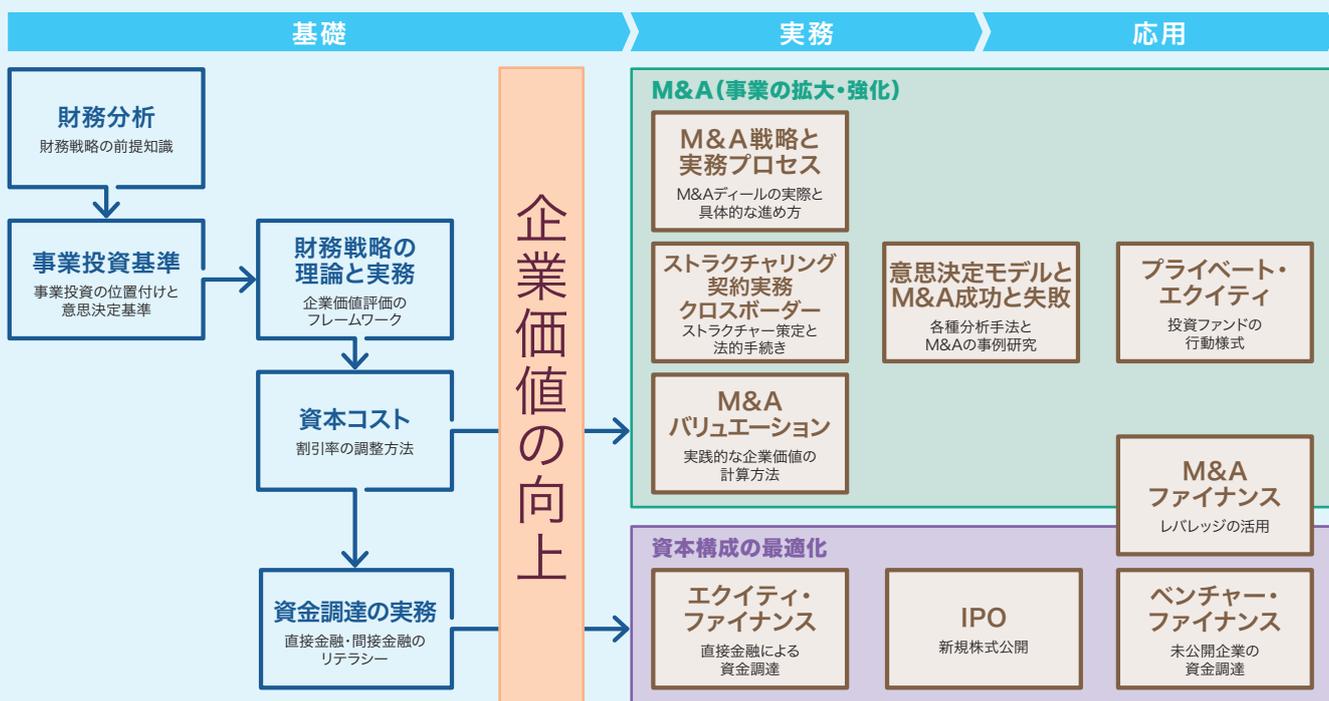
インベストメント・バンキング講座

I N V E S T M E N T B A N K I N G

Zoomでのオンライン受講

基礎から実務、応用まで

資本コストや株価を意識した
新しい経営戦略をまるごと解説します。



日経ビジネススクール
NIKKEI BUSINESS SCHOOL

M&Aと資金調達の実務を学ぶ

インベストメント・バンキング講座

インベストメント・バンキング講座とは

企業価値を向上させるための投資行動と財務手段である企業金融に関する実務。具体的には事業投資やM&A、株式・債券発行による資金調達等について幅広い範囲に亘って基礎から応用まで網羅的に学ぶことができる講座です。

これらはどれも専門性高く学問的にも高度であるため、とっつきにくい分野ではありますが、長年の経験に裏打ちされたインベストメント・バンカーが自身の体験談を交えながら、わかりやすく説明しますので、キャリア浅めの方であっても、実務に即した深い理解を得られるのが特徴です。

Zoomでのオンライン受講

※ このご案内には2025年3月1日時点での予定です。日程、講師・内容等は都合により変更させていただきます。

基礎	
<p>財務戦略の前提知識となる財務諸表・財務指標分析など、財務会計の基礎を学習します。</p> <p>財務分析 — オリジナル・ケーススタディ</p> <p>決算書(財務三表)の理解:貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の意味とつながりをザックリ理解し、会社の特徴を把握する 120分 演習問題:損益計算書をマトリクス構造に分解/貸借対照表の右側と左側/キャッシュフロー計算書とBS、PLを図にして企業の状態を俯瞰する...60分 財務分析の手法:収益性・安定性・成長性を、時系列・同業他社比較で分析し、数値面から会社の課題と改善策を考える..... 120分 ケーススタディ、収益改善の方法論:財務分析作図演習/デュボン・アナリシス/ROICツリー/補足講義(中期業績計画のモデリング) 60分</p>	<p>P 3</p> <p>5/28(水) 1日集中</p> <p>受講料 53,900円(税込)</p> <p>内倉</p>
<p>企業価値評価を向上させる手段としての事業投資の位置付けを明確に把握します。</p> <p>事業投資基準</p> <p>投資基準の変遷/ROI/キャッシュフローと時間価値/NPVとIRR/ケーススタディ(複数プロジェクトからの選択)/リスクに応じたハードルレート設定 ... 160分 プライベートエクイティ(P/E)ファンドの投資基準(IRRとMOM)/LBO・MBOのスキーム/価値創造の3つのドライバー/ケーススタディ、経済的付加価値(EVA)/EVAを改善する4つのドライバー/インセンティブ・プランへの応用..... 80分</p>	<p>P 4</p> <p>6/3(火) 半日</p> <p>受講料 39,600円(税込)</p> <p>内倉</p>
<p>財務戦略に関する理論的な知識武装を目的とし、基本的な企業価値評価のフレームワークを学びます。</p> <p>財務戦略の理論と実務 — オリジナル・ケーススタディ</p> <p>ファイナンス戦略の理論:企業価値と株主価値/資本資産価格モデル(CAPM)/MM理論/加重平均資本コスト(WACC)/ベータ/最適資本構成/演習... 120分 DCFモデル:フリー・キャッシュフローと永続価値(ターミナルバリュー)/DCF企業価値算定の構築手順と留意点/演習..... 60分 企業評価(バリュエーション)の基礎:収益還元方式/マルチプル(倍数)法(類似会社比較方式、類似案件比較方式)/シナジー効果..... 150分 ケーススタディ:企業価値・株主価値の算定/買収価格の算定 30分</p>	<p>P 5</p> <p>6/10(火) 1日集中</p> <p>受講料 53,900円(税込)</p> <p>植木</p>
<p>代表的な金融プロダクトである債券、株、CBが、どのように発行されているのか、商品ごとの特徴やポイントも踏まえて理解します。</p> <p>資金調達の实務 — オリジナル・ケーススタディ</p> <p>デットファイナンスの基礎:銀行借入と社債発行の違い/ALMによるリスク管理/社債の種類と発行までのスケジュール/社債のプライシング...60分 債券格付け:格付け評価のポイント/評価に使われる主要財務指標/金利スプレッドとの関係/デフォルトの相関/実例を用いた練習問題 ... 120分 エクイティ・ファイナンスの基礎:目的・留意点と投資銀行の役割/公募増資/転換社債/資金調達の選択肢及びそれぞれのメリット、デメリット...150分 IR(インベスターリレーション):適正なプライシング(企業価値評価)を獲得するために/機関投資家の類型と特徴/投資家は何を知りたいのか...30分</p>	<p>P 6</p> <p>6/11(水) 1日集中</p> <p>受講料 53,900円(税込)</p> <p>三浦 早川</p>
<p>注目を集める資本コストについて、理論の本質を理解し、それに伴い実務への応用力を高めます。</p> <p>資本コスト — 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて —</p> <p>資本コスト経営が求められる社会的背景と環境変化:コーポレートガバナンス改革/アクティビズムの台頭/M&A指針(経済産業省)/ESG(国際評価機関)/結び...60分 資本コストの概念と推計手法:資本コストとは/CAPMアプローチ/CAPMに基づく資本コスト試算/Implied資本コスト/事業部別資本コストの算定...90分 資本コストを利用した経営戦略の実践:事業計画とのインテグレーション/事業ポートフォリオ戦略/キャピタルアロケーションと資本政策/IR戦略/結び...90分</p>	<p>P 7</p> <p>6/17(火) 半日</p> <p>受講料 39,600円(税込)</p> <p>山手</p>

豊富な経験をもつトップクラスの実務家が講義を担当します

講師プロフィール

内倉 栄三	元 ゴールドマン・サックス証券株式会社 投資調査部門/投資銀行部門
植木 務	元 J.P.モルガン証券株式会社 投資銀行本部 金融法人部共同責任者
三浦 毅司	元 クレディ・スイス証券株式会社 株式調査本部 株式調査部 ヴァイス・プレジデント
早川 亮	元 ドイツ証券株式会社 株式資本市場部 ディレクター

M&A系実務

ディールのキックオフからクロージングまでの流れを追いながら、現場で直面する様々な問題を取り上げます。

M&A 戦略の構築と実務プロセス

M&A戦略立案のポイント/実行体制の整備/ターゲットの選定とアプローチ/M&A担当者に求められる能力/投資銀行の役割と活用方法 120分
 M&Aディールの流れ/プロセスにおける注意点/入札価格とフェアな価格の考え方/のれん問題/デューデリジェンスの実施/M&A交渉戦術... 120分

13:00~17:00 P 8 6/12(木)
半日

受講料
39,600円(税込)
※投資銀行の方のご受講はご遠慮ください。

国内、クロスボーダー案件のストラクチャリング、各種契約書のストラクチャーや考え方を学びます。

M&A ストラクチャリングと契約実務 — クロスボーダーM&Aを含めて

ストラクチャリングの実践と形態(ケーススタディ)/最近の動向/米国企業買収の基本的ストラクチャー/クロスボーダー取引の注意点 120分
 M&A契約書の種類と基本構成/投資銀行とのアドバイザー契約書のポイント/株式売買契約書のストラクチャーと考え方 120分

13:00~17:00 P 9 6/20(金)
半日

受講料
39,600円(税込)
※投資銀行の方のご受講はご遠慮ください。

拡がりをみせるM&Aの資金調達方法について、数々の選択肢におけるメリット、デメリットを豊富な資料を元に把握していきます。

M&A ファイナンス — オリジナル・ケーススタディ

M&Aのための資金調達と選択肢/ブリッジローン/レバレッジドローン、ハイールド債、第二順位担保権付ローン、コベナント・ライト型ローン...90分
 レバレッジド・ファイナンスの実務/ストラクチャリング/ケーススタディ(LBO/MBO/ファンドが経営参画/経営陣のみが議決権を取得) 150分

13:00~17:00 P10 6/24(火)
半日

受講料
39,600円(税込)

感応度分析など、より実践的な手法を1つ1つ丁寧に紹介。DCFについてはエクセルによるデモを交えてわかりやすく解説します。

M&A 企業評価(バリュエーション)の実務 — オリジナル・ケーススタディ

ターミナルバリュー/非上場企業のWACC/類似企業比較と類似取引比較分析/Floating Bar Chart/Football Chart/AVP、他 120分
 シナジー分析/APV/EPS感応度分析/プロフォーマ財務分析/非上場企業の修正利益/入札価格の考え方/買収価格の妥当性、他 120分

13:00~17:00 P11 6/25(水)
半日

受講料
39,600円(税込)
※投資銀行の方のご受講はご遠慮ください。

増加の一途をたどるプライベート・エクイティ(投資ファンド)絡みのM&A。その実像と行動様式について学びます。

M&A プライベート・エクイティ — オリジナル・ケーススタディ

プライベート・エクイティ投資とは/主なサブ戦略とリターンの源泉/ベンチャーキャピタル投資/グロースキャピタル投資/ディストレス投資、他...90分
 投資活動の流れ/投資案件の発掘とデューデリジェンス/資金調達のアレンジ/投資決定と投資先企業のバリューアップ、他 90分

13:30~16:30 P11 休講
半日

成功に必要な条件、過去の失敗事例における原因の所在、成功事例の裏側についての基本理解が得られます。

M&A Go or Not Goの意思決定モデル — オリジナル・ケーススタディ

倍率法の原理(利益成長率α利益倍率)/資金調達手法と買収価格によるEPS変動分析/ブレイクイーブンPER/EPS変動分析の効用 120分
 LBOにおける意思決定モデル/成功例と失敗例および分析/ケーススタディ(計算演習) 120分

13:00~17:00 P12 7/3(木)
半日

受講料
39,600円(税込)

財務系実務

価格決定にまで至る詳細が学べるのは本講座だけ。引受主幹事の思考ノウハウが身につきます。

エクイティ・ファイナンス — オリジナル・ケーススタディ

国内発行と海外発行/オフリング・ストラクチャーの選択肢/投資家層/デューデリジェンス/引受審査/オーバーアロットメント 90分
 IR活動の重要性/販売活動とリサーチアナリスト/ディスカウント・レンジ/ブックビルディング、プライシング、配分/ケーススタディ 90分

10:00~13:00 P13 6/18(水)
半日

受講料
31,900円(税込)
※午後のIPOご受講の方は、合わせて53,900円(税込)

体験談と完成度の高いケーススタディで、IPOのプロセスが実感を作って理解できます。

新規株式公開【IPO】 — オリジナル・ケーススタディ

IPOの概要/オフリング・ストラクチャー/仮条件/エクイティ・ストーリーの構築/ロードショー実施/ブックビルディング/公開価格決定/
 類似会社バリュエーション比較/プレ・マーケティング/価格レンジ/公開価格決定と投資家への配分/アフターマーケット分析 135分
 ケーススタディ 45分

14:00~17:00 P13 6/18(水)
半日

受講料
31,900円(税込)

ベンチャー企業の資金調達方法について、実例を用いて具体的に学びます。

ベンチャーファイナンス — オリジナル・ケーススタディ

ベンチャーファイナンスの基礎:ベンチャーファイナンスとコーポレートファイナンスの違い/ベンチャー企業特有の企業価値算定方法 150分
 資金調達プロセスの実際:プレーヤーの種類/企業発展段階とラウンド戦略/投資家の関心/株式の種類/希薄化の考え方/EXIT戦略 90分

13:00~17:00 P14 7/2(水)
半日

受講料
39,600円(税込)

山手 剛人	プロフィンクス株式会社 代表取締役COO(兼 株式会社ブルータス・コンサルティング エグゼクティブ・アドバイザー)
宮川 圭治	リンカーン・インターナショナル シニア・アドバイザー (元 ドイツ証券株式会社 副会長 M&A部門責任者)
小泉 泰郎	株式会社FiNC Technologies 代表取締役 CEO & CFO
服部 暢達	元 ゴールドマン・サックス証券株式会社 投資銀行部門 資本市場本部共同本部長 兼 マネージング・ディレクター 早稲田大学 大学院経営管理研究科 客員教授

財務分析

財務理論を学ぶにあたって、その前提となる財務諸表・財務指標分析の基礎知識を学習します。簿記や仕訳など通常の会計の教科書とは異なり、作図による全体感の把握という手法により、企業評価の3要素(収益性・安定性・成長性)の分析技法をわかりやすく解説します。単なる数値分析ではなく、数字の裏にある企業戦略とのつながりを推測する眼を養います。経営視点から、財務会計の本質を短時間で学びたい方、復習したい方にお勧めします。

Session 1&2
180分

決算書(財務三表)の理解

1. 財務三表の意味：企業の4つの活動(資金調達、投資、営業、資金分配)を適正に数値化
2. PL・BSを縮尺図にして企業の状態を俯瞰する：全体感の把握 — 何に注目するか？
3. 損益計算書：5つの利益から会社の特徴を把握し、PLをマトリクス構造に分解
4. 設備投資と減価償却費の考え方とEBITDAの意義
5. 貸借対照表：大きさや大項目の構成から健全性を把握 — 左右を比較するポイント
6. PLとBSの関係：BSは「瞬間のストック」、PLは「期間のフロー」を表す
7. キャッシュフロー計算書：パターンで会社の状況が読める — 当年度PL・CF ⇒ 期末BSへのリンク
8. 利益操作の疑いのある不適切な会計：どこに注目するか
9. 財務三表の読み方：PL・BSを縮尺図にして企業の状態を俯瞰する
10. 演習問題：同業2社の決算書から企業戦略を推測、決算書の特徴から業種・企業を推測

Session 3&4
180分

財務分析の手法

1. 財務分析のポイント：「全体感の把握」から「数値分析」へ
2. 収益性分析：売上に対する利益率、資産に対する利益率 — 一番大事なことは？
3. ROA、ROIC、ROEの違いとそれぞれの本質的意義 — 一体誰のための指標か？
4. 回転率：どれだけ投資して、どのくらい売っているか
5. 売上に対する利益・費用比率
6. 安定性分析：短期・長期の適合率、負債と資本の割合、債務返済能力
7. 損益分岐点(BEP)分析：売上がいくら(何%)になっても、赤字にならずにすむのは？
8. 成長性分析：売上の成長、マージンの改善 — まずは定量的な姿を確認する
9. 収益改善の方法論：デュボン・アナリシス
10. ROICツリー：他社比較と時系列比較
11. ケーススタディ：財務分析による経営状況の診断
 - ・時系列比較・同業他社比較 — 過去を振り返り、各社の中期的な方向性を推察
 - ・利益変動要因とセグメント利益 — 戦略メカニズム=有機的つながりのメカニズム

補足講義

中期業績計画のモデリング

1. 中期業績の予想数値作成の手順(PL ⇒ CF ⇒ BSへのリンク)
2. 業績予想のモデリング
3. 定量的な姿の把握と投資計画の把握
4. 事業計画モデルの作成ポイント：PL(売上・費用)予想、CF予想、BS(右側・左側)予想
5. 事業計画の作成：前提条件とアウトプット
6. 結果の妥当性確認：「なりたい姿」との比較 — 業績予想とは、ストーリーを数値化する作業のこと



5/28(水)

前半:10:00~13:00、後半:14:00~17:00(6時間)

講師 内倉 栄三

元 ゴールドマン・サックス証券株式会社
投資調査部門/投資銀行部門

受講料 53,900円(税込)

事業投資基準

事業投資の成否は業績への影響が最も大きく長期間にわたります。よって、事業投資の意思決定は企業にとって最重要課題といえるでしょう。企業価値評価を向上させる手段としての事業投資の位置付けを明確に把握し、NPV・IRR・EVAなど、様々な事業投資基準のメリット・デメリットについて学びます。近年M&A市場の主要プレイヤーとなったプライベート・エクイティの投資判断の行動様式についてもふれます。

6/3(火)

13:00~17:00(4時間)

講師 内倉 栄三

元 ゴールドマン・サックス証券株式会社
投資調査部門/投資銀行部門

受講料 39,600円(税込)

Session 1
60分

投資評価の手法

1. 事業会社の活動と事業投資 — 最も重要な意思決定である理由
2. 投資決定基準 — それぞれの個別属性に応じた決め方
 - ・売上・市場シェア、利益額・売上高利益率
 - ・ROI(投下資本収益率)、CFROI(キャッシュベースの投下資本収益率)
3. ROIのメリットとデメリット

Session 2
100分

IRRとNPV

1. キャッシュフローと時間価値の重要性
2. 正味現在価値(NPV)
 - ・NPVによる投資の意思決定方法
3. 内部収益率(IRR)
 - ・計算方法
 - ・ハードルレート
4. NPV・IRRのメリット・デメリット
5. 日米企業の投資基準の相違
6. ケーススタディ — プロジェクト別の投資の意思決定

Session 3
60分

投資ファンドの投資基準

1. プライベートエクイティ(P/E)ファンドの投資基準(IRRとMOM)
2. LBO・MBOのスキーム
3. 価値創造の3つのドライバー
4. ケーススタディ — 投資ファンドのリターン推定

Session 4
20分

EVAの活用

1. EVAのメリットと計算式の本質
2. EVAの優位性、EVAを改善する4つのドライバー
3. インセンティブ・プランへの応用、批判と実際の適用における検討課題

財務戦略の理論と実務



必要不可欠なファイナンス・ツールであるWACC(加重平均資本コスト)、DCF(ディスカウント・キャッシュフロー)モデル、企業価値評価(バリュエーション)手法について、練習問題を取り入れながら平易に解説します。本テーマは、実務講座群のエクイティ・ファイナンス、IPO、M&Aの各テーマ受講の前提になる基礎理論を1日集中で習得することを目的とします。

6/10(火)

前半:10:00~13:00、後半:14:00~17:00(6時間)

講師 植木 務

元 J.P. モルガン証券株式会社 投資銀行本部
金融法人部共同責任者

受講料 53,900円(税込)

Session 1
120分

ファイナンス戦略の理論

1. 企業価値と現在価値

- ・企業価値とは
- ・キャッシュフローの現在価値
- ・現在価値と割引率の関係

2. 資本資産価格モデル(CAPM)

- ・ポートフォリオの最適化と効率的フロンティア
- ・効率的フロンティアとリスクフリー資産
- ・資本資産価格モデル(CAPM)

3. 資本政策と資本コスト

- ・MM理論(第一命題、第二命題)
- ・株主資本コストと負債コスト
- ・WACC(加重平均資本コスト)
- ・ β について(レバード・アンレバード等)
- ・最適資本構成についての考察
- ・演習問題

Session 2
60分

DCFモデルの概略

- ・フリー・キャッシュフローとは
- ・DCFモデルの特徴
- ・DCFモデル構築手順
- ・演習問題

Session 3
150分

企業価値評価(バリュエーション)の概略

- ・収益還元方式(DCF法)
- ・マルチプル(倍数)法:類似会社比較方式、類似案件比較方式
- ・シナジー効果、コントロールプレミアム、非流動性ディスカウント

Session 4
30分

オリジナル・ケーススタディ

- ・企業価値・株主価値の算定(練習問題)
- ・買収価格の算定(練習問題)

資金調達の実務



代表的な金融プロダクトである債券、株、CBが、どのような背景で発行されているのか特徴やポイントを踏まえて概説します。市場とのコミュニケーション(IR)や、債券格付けについても触れます。本テーマは、実務講座群のエクイティ・ファイナンス、IPO、M&Aファイナンス、ベンチャーファイナンス受講の前提になる基礎知識を1日集中で習得することを目的とします。

6/11(水)

前半:10:00~13:00、後半:14:00~17:00(6時間)

講師 三浦 毅司

元 クレディ・スイス証券株式会社 株式調査本部 株式調査部
ヴァイス・プレジデント

講師 早川 亮

元 ドイツ証券株式会社 株式資本市場部 ディレクター

受講料 53,900円(税込)

Session 1
60分

デットファイナンスの基礎

1. 銀行借入と社債発行および増資、それぞれの特徴とメリット、デメリット — ケースによってどれを選択すべきか?
2. ALM(Asset Liability Management)
3. 社債の種類と発行手続き — プライシングの仕組み
4. 社債のプライシングの実務

Session 2
120分

債券格付け

1. 社債格付けの仕組みと考え方 — インデックスとの関係
2. 格付けと金利スプレッドの実際 — 震災後の東京電力債を例に考察
3. デフォルトとの相関 — 債務不履行=倒産ではない
4. 格付け評価に使われる主要財務指標と評価ポイント — 経営戦略や財務戦略も意識する
5. 格付けを上げるためのファイナステクニック
6. 実際の決算短信を用いた格付け推定演習 — A格にするために必要な有利子負債削減額は?

Session 3
150分

エクイティ・ファイナンスの基礎

1. エクイティ・ファイナンスの目的・留意点
2. 投資銀行の役割 — 機能別役割とコンフリクト
3. 主要エクイティプロダクト
4. 資金調達選択肢の特徴 — それぞれのメリット、デメリット
5. 公募増資のストラクチャー
6. 転換社債(CB)、私募型(MSCB)、他社株交換型(EB)
7. IR活動とリサーチカバレッジの重要性
8. 公募増資による株価へのインパクトについて
9. CBのプライシングメカニズム — 債券価値とコールオプション価値
10. 発行条件に影響を与える要素

Session 4
30分

IR(インベスター・リレーション)

1. IR — 適正なプライシング(企業価値評価)を獲得するために
2. 機関投資家の類型と特徴 — 機関投資家の資金フロー
3. ヘッジファンド
4. 投資家は何を知りたいのか — よくきかれるポイント
5. IRミーティング、ロードショーの実際 — ロードショー・プレゼンテーション

資本コスト

— 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて —

事業会社の経営戦略に関わるビジネスパーソン(経営企画、財務、広報/IR、M&A等)を対象に、資本コストの「理論」と経営戦略やIRへの活用にかかる「実践」について、両面アプローチで解説します。講義は、資本コスト経営が求められる社会的背景や環境変化(Session1)、資本コストの概念と推計手法(Session2)、資本コストを利用した経営戦略の実践(Session3)の3部構成とします。

Renewal!

6/17(火)

13:00~17:00 (4時間)

講師 山手 剛人

プロフィンクス株式会社 代表取締役COO(兼 株式会社ブルーラス・コンサルティング エグゼクティブ・アドバイザー)

受講料 39,600円(税込)

Session 1

60分

資本コスト経営が求められる社会的背景と環境変化

はじめに — 上場企業に押し寄せる4つの波

1. コーポレートガバナンス改革(金融庁/東証)
 - ・コーポレートガバナンスコード
 - ・エージェント理論とステュワードシップ理論
 - ・東証再編とTOPIX 構成銘柄見直しの狙い
2. アクティビズムの台頭(投資家)
 - ・ステージ別のアクティビスト対応フロー
 - ・議決権行使助言会社と機関投資家の行使基準の変化
3. M&A 指針(経済産業省)

- ・敵対的買収 → 同意なき買収
- ・MBOという選択肢
- ・レプロン義務と特別委員会

4. ESG(国際評価機関)

- ・ESGは誰のためのものか — β アクティビズム
- ・ESGを推進すると株価は上がるのか
- ・ESGとの向き合い方

結び — 改めて問われる上場意義 —
メリット/デメリットの再考
(質疑応答/ディスカッション)

Session 2

90分

資本コストの概念と推計手法

1. 資本コストとは

- ・株主資本コスト(CoE)
- ・加重平均資本コスト(WACC)
- ・株式バリュエーション指標

2. CAPMアプローチ

- ・CAPMの概要
- ・算定手順 — リスクフリーレート/
マーケットリスクプレミアム/ β /サイズプレミアム

3. CAPMに基づく資本コスト試算

- ・ケーススタディ

- ・産業区分別の傾向

4. Implied 資本コスト(残余価値モデル)

- ・算定アプローチ
- ・PBRの決定要因
- どこまでROEは株価を説明できるのか

5. 事業部別資本コストの算定

- ・算定単位 — 事業ユニット/国地域
- ・算定アプローチ

(質疑応答/ディスカッション)

Session 3

90分

資本コストを利用した経営戦略の実践

1. 事業計画とのインテグレーション

- ・あるべき検討プロセス
- トップダウンかボトムアップか
- ・中期経営計画2.0 — 網羅すべき開示事項
- ・ROE目標や資本政策検討のワークフロー
- ・立ちはだかる壁 — 経営層や事業部の理解醸成

2. 事業ポートフォリオ戦略

- ・事業ポートフォリオ戦略の検討フロー
- ・マトリクスとバリューマップ
- ・事業撤退と資本コスト
- 撤退費用の回収という視点

3. キャピタルアロケーションと資本政策

- ・最適資本構成の推計アプローチ
- ・資本政策の検討 — 目指すROEや
株価水準からのバックキャスト

- ・キャピタルアロケーション

4. IR戦略

- ・機関投資家の視点と思考回路
- 資本コストは対話ツール
- ・投資家が評価するIR開示のポイント
- 財務モデリングのためのKPI設定

5. (結び)「選択と集中」は正しいのか

- ・コングロメリットディスカウントが見落としているもの — スタンドアローンコスト
- ・グローバル企業と日本企業
- 本当に足りていないのは新規事業の試行錯誤

(質疑応答/ディスカッション)

M&A 戦略の構築と実務プロセス

事業会社のM&A担当者などを対象に、担当者として知っておかなければならないM&A業務の基本について解説します。M&Aディールのキックオフからクロージングまで、買い手(あるいは売り手)であることを想定して一般的な流れを追いながら、実際にM&A担当者として直面する様々な問題について取り上げます。社内体制整備や投資銀行の活用方法など、実践的な課題にも言及します。時折、参加者自らの考えについても発言していただきながら、インタラクティブに議論を深めていきます。

6/12(木)

13:00~17:00 (4時間)

講師 宮川 圭治

リンカーン・インターナショナル シニア・アドバイザー
(元ドイツ証券 副会長 M&A部門責任者)

受講料 39,600円(税込)

※投資銀行の方のお申し込みはお断りしますのでご了承ください。

Session 1

120分

M&A 担当者としての役割

1. M&A市場の特徴

2. M&A戦略の構築

- ・M&Aの具体的な目的と形態
- ・戦略立案のポイント — シナジーは必要か?

3. 実行体制の整備

- ・M&A担当者に求められる能力 — 期待される7つのスキル
- ・案件の発掘 — ターゲットの選定とアプローチ
- ・プライベート・エクイティへのアプローチ

4. 投資銀行の活用方法

- ・契約における注意点と手数料 — 国内中小市場/グローバル市場

Session 2

120分

M&Aディールの実務

1. M&Aディールの流れ及び進め方

- ・M&Aのプロセス(入札のケース) — キックオフからクロージングまで
- ・プロセス・レター (Bid Instruction Letter)
- ・買収ストラクチャーの基本形
- ・M&Aプロセスにおける注意点
- ・入札価格とフェアな価格の考え方 — 売手にとっての公正価格? 買手にとっての公正価格?
- ・買収マルチプルだいたい目安と今の世界トレンド
- ・「のれん」問題
- ・表明保証保険(RWI)の活用
- ・フェアネス・オピニオン
- ・具体的なM&Aスケジュール

2. デューデリジエンス(買収監査)の実施

- ・ビジネス・デューデリジエンス
- ・法務デューデリジエンス
- ・会計デューデリジエンス
- ・その他の専門デューデリジエンス

3. 価格交渉の仕方と注意点

- ・交渉戦術の基本とM&A交渉でよくみられる問題
- ・価格交渉の難しさ — 買い手として、どういった交渉をすべきか

M&A ストラクチャリングと契約実務

— クロスボーダーM&Aを含めて

事業会社のM&A担当者などを対象に、M&Aのストラクチャリングについて、国内案件・クロスボーダー案件を含めその基本と担当者としての留意点を解説します。また、M&A担当者として不可欠な、各種の契約実務を学びます。秘密保持契約書、投資銀行とのアドバイザリー契約書、株式売買契約書などについて、そのストラクチャーや考え方のポイントを解説します。

6/20(金) 13:00~17:00 (4時間)

講師 宮川 圭治

リンカーン・インターナショナル シニア・アドバイザー
(元ドイツ証券 副会長 M&A部門責任者)

受講料 39,600円(税込)

※投資銀行の方のお申し込みはお断りしますのでご了承ください。

Session 1

120分

ストラクチャリング

1. ストラクチャリングの実践

- ・ストラクチャーに関する法制度
- ・ストラクチャリングの基本事項

2. ストラクチャリングの形態

- ・現金取引：相対売買、株式公開買付け、第三者割当増資 — 第三者割当増資の規制強化
- ・会社法における少数株主権
- ・組織再編行為：合併、会社分割、株式交換、株式移転
- ・事業譲渡
- ・スクイズアウト
- ・公開買付の想定スケジュール
- ・その他のM&Aストラクチャー — 敵対的買収の注意点
- ・ケーススタディ — 前オーナーとのジョイントベンチャーの是非

3. ストラクチャリングをめぐる最近の動向

- ・ファンドによる買収ストラクチャー (LBO)
- ・資金調達を考えたストラクチャー
- ・所有権と経済的利益を分離したストラクチャー

4. クロスボーダー M&A

- ・国境を越えた企業の統合ストラクチャー
- ・ケーススタディ — 石油鉱区権益の買収
- ・米国企業の買収ストラクチャー
- ・海外地域別持株会社の設立

Session 2

120分

M&A担当者にとっての契約実務

1. M&A契約書の種類とその基本的構成

- ・秘密保持契約書 (NDA, CA) のポイント — 受領者定義、秘密情報の範囲、準拠法、廃棄義務、他
- ・基本合意書 (Letter of Intent)
- ・株式売買契約書 (本契約) の骨子
- ・共同買収合意書 (JV)
- ・株主間協定 (SA)

2. 株式売買契約書のストラクチャー及び交渉ポイント

- ・合意事項
- ・表明・保証 (Representations and Warranties)
- ・約定条件 (Covenants)
- ・停止条件 (Condition to closing)
- ・補償 (Indemnification)
- ・売買契約書の諸条件 (米国事例から) — 補償上限額、エスクロー金額、バスケット金額、補償期間
- ・運転資金調整 (Working Capital Adjustment [WC True-ups])

3. 投資銀行とのアドバイザリー契約書のポイント

- ・リテイナー報酬 — リーマン方式は一般的?
- ・成功報酬 — 買手と売手での違い

M&A ファイナンス

グローバル化が進展する中、M&Aのための資金調達手法はさまざまな拡がりを見せています。本講義では、種々の選択肢のメリット・デメリットについて論じ、つなぎ融資としてのブリッジローンと、LBO・MBO案件の資金調達に多用されるノンリコース・ローンの仕組みについて、豊富な資料をもとに、その最先端を紹介します。

6/24(火) 13:00~17:00 (4時間)

講師 小泉 泰郎

株式会社FINC Technologies 代表取締役 CEO & CFO
元 ゴールドマン・サックス証券株式会社 投資銀行部門
資本市場本部共同本部長 兼 マネージング・ディレクター

受講料 39,600円(税込)

Session 1

90分

M&Aファイナンス

1. M&Aのための資金調達と選択肢の考慮点

- ・自己資金/コーポレートローン/ノンリコース・ローン/社債/転換社債/増資

2. ブリッジローンの仕組み — なぜつなぎ融資が必要なのか

- ・ブリッジローンの諸条件

Session 2

150分

レバレッジド・ファイナンスの実務

1. レバレッジド・ファイナンスの仕組みと理論

2. レバレッジド・ファイナンスの性質

(買収ファイナンス、キャッシュフローレンディング、ノンリコースファイナンス、ハイレバレッジ)

3. レバレッジ効果とメリット (買収者の視点、負債提供者の視点、市場参加者、売り手・買い手、金融機関)

4. M&A /レバレッジド・ファイナンス市場

- ・Pro Rataポーション (レボルバー&タームローンA)
- ・レバレッジド・ローン
- ・ハイールド債
- ・第一順位担保権付レバレッジド・ローン
- ・第二順位担保権付 (Second Lien) ローン
- ・コベナント・ライト型ローン、他

5. 案件プロセス — 5つの工程

- ・Phase I 初期検討：ディール・ストラクチャリング/キャピタリゼーション/インディケーション提示
- ・Phase II 案件分析：事業分析/CFモデル分析/DD/与信判断/コミットメントレター
- ・Phase III ドキュメンテーション：タームシート (融資基本条件)/ローン契約/担保契約
- ・Phase IV シンジケーション：参加銀行招聘/参加表明期限/アロケーション決定
- ・Phase V クロージング：先行条件充足/担保取得/融資実行

6. ストラクチャリング — どのようなキャピタル・ストラクチャーが可能か?

- ・調達構造 — シニアローン、メザニン、エクイティの関係
- ・融資条件 — トランピング/フィー/担保と保証
- ・キャピタル・ストラクチャー策定 — デット・キャパシティの決定要因とエクイティ出資額
- ・買収マルチプルの推移 — 足下の動向
- ・財務制限条項 — レバレッジ・レシオ/カバレッジ・レシオ/最低自己資本/設備投資制限
- ・その他の誓約事項 — Affirmative Covenants / Negative Covenants, etc

7. 演習：東芝セラミックスのMBO (ストラクチャリング/メリットとデメリット/実施における留意事項)

8. MBO (マネジメント・バイアウト)

- ・想定されるストラクチャー — 公開買付の準備から再上場まで
- ・メリットとデメリット
- ・ストラクチャーに関する検討例 — 通常のケースと、メザニンを活用したケース
- ・実施における留意事項

9. MBOケーススタディ (ユーエスジェイ、ベルシステム24、吉本興業、レックス・ホールディングス、サイバードホールディングス、すかいらーく、ポッカコーポレーション、ワールド、サンスター)

M&A 企業評価(バリュエーション)の実務

オリジナル
ケーススタディ

DCFや類似企業分析等の標準的企業分析方法と活用の仕方については「財務戦略の理論と実務」で触れますが、本講義では、それからさらに一歩踏み込んだ分析方法について、それぞれの特徴や留意点を紹介します。さらにケースを用い、実際にエクセルでDCF分析を試みる他、限定的な情報を基にした簡易的な企業評価等々、実践に役立つ手法を紹介します。デモに使用したエクセルファイルはお持ち帰りいただけます。

6/25(水) 13:00~17:00(4時間)

講師 宮川 圭治

リンカーン・インターナショナル シニア・アドバイザー
(元 ドイツ証券 副会長 M&A部門責任者)

受講料 39,600円(税込)

※投資銀行の方のお申し込みはお断りしますのでご了承ください。

Session
1
120分

M&Aバリュエーションの概要

- | | |
|--|-------------------------------|
| 1. M&Aにおける財務分析のフレームワーク | 4. 類似取引比較分析の注意点 |
| 2. バリュエーション分析
・ターミナルバリュー
・非上場企業のWACC | 5. Floating Bar Chart |
| 3. 類似企業比較分析の注意点 | 6. Football Chart |
| | 7. ANALYSIS AT VARIOUS PRICES |

Session
2
120分

M&Aバリュエーションの応用

- | | |
|---|--------------------------|
| 1. DCFモデル作成の留意点
～新型コロナが与える影響 | 7. プロフォーマ(予想)財務分析 |
| 2. マルチプルを利用した企業価値の推計 | 8. 企業評価方法の選択 |
| 3. シナジー分析 | 9. 非上場企業の修正利益 |
| 4. WACCと投資のハードルレート | 10. 入札価格の考え方 |
| 5. Adjusted Present Value～DCF法との比較 | 11. 買収価格の妥当性 |
| 6. EPS(一株純利益)
感応度分析(Accretion/Dilution analysis) | 12. 米国中小M&A市場における買収マルチプル |
| | 13. フェア(公正)な価格とは何か? |

M&A プライベート・エクイティ

オリジナル
ケーススタディ

M&A市場の主要プレイヤーとなったプライベート・エクイティの実像と行動様式について学びます。財務的買手(フィナンシャル・バイヤー)であるプライベート・エクイティと、一般企業などの戦略的買手(ストラテジック・バイヤー)の相違点を理解することは、入札など競争状況の中でM&A取引を成功に導くための必須条件です。

休講

Session
1
90分

プライベート・エクイティ投資の概要

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. プライベート・エクイティ投資とは | 4. グロースキャピタル投資 |
| 2. 主なサブ戦略とリターン源泉 | 5. ディストレス投資 |
| 3. ベンチャーキャピタル投資 | 6. プライベート・クレジット投資 |

Session
2
90分

投資活動とバリューアップ

- | | |
|----------------------|----------------------------|
| 1. 投資活動の流れ | 3. 資金調達のアレンジとバイアウトにおける資金調達 |
| 2. 投資案件の発掘とデューデリジェンス | 4. 投資決定と投資先企業のバリューアップ |

補足講義
1

プライベート・エクイティ・ファンドへの投資

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1. 投資残高の推移についての考え方 | 3. 投資における4つの原則 |
| 2. アセットクラスとしてのPE投資の特徴 | 4. フォーマンスとマネージャー間における格差 |

補足講義
2

プライベート・エクイティ投資のアプローチと市場見通し

- | | |
|----------------------|---------------------------|
| 1. プライマリー/セカンダリー投資戦略 | 3. 投資活動の現状とエグジットの状況 |
| 2. 共同投資 | 4. 地域別、戦略別、それぞれの投資テーマと見通し |

M&A Go or Not Goの意思決定モデル

オリジナル
ケーススタディ

世界のM&Aの現場において、経営者と資本市場双方が重視するEPS変動分析と、買収ファンドが買手の場合に使われるLBO収益モデルによる分析方法をケーススタディも交えて具体的に学びます。最終セッションでは、過去のM&A案件から、とりわけ失敗とされるケースを取り上げ、その要因把握を成功のための教訓として総括します。

7/3(木) 13:00~17:00(4時間)

講師 服部 暢達

早稲田大学大学院 経営管理研究科 客員教授

受講料 39,600円(税込)

Session
1
120分

倍率法の原理とEPS変動分析

1. 倍率法の原理(利益成長性 α 利益倍率)
2. 純利益成長率とPER
3. 資金調達手段と買収価格によるEPS変動分析
4. EPS変動のブレイクイーブンPER
5. 買収価格PERと買手のEPS変動
6. 買手予想PER・純利益と買手買収前後EPS変動
7. トヨタ自動車による日産自動車買収:EPS変動計算事例
8. EPS変動分析の効用
9. 演習問題

Session
2
60分

LBOにおける意思決定モデル

1. LBO実行の仕組み
2. PER一定モデルによる検討
3. EBIT倍率一定モデルによる検討
4. ケーススタディ(トーカロ、ワールド、すかいらく、レックス、シャルレ、サンスター、ローランド他)
5. 演習問題

Session
3
60分

日本企業関連のM&Aの成功例、失敗例とその分析

1. M&Aの現象と結果
2. M&Aと株主価値の創造
3. OUTBOUNDの失敗例(Verio、AT&TW、タタ、ランバクシー、IKON、ホンハイ、Beam他)
4. INBOUNDの失敗例(三菱自動車、日本リース、東邦生命、西友、日本テレコム、日興証券他)
5. OUTBOUNDの成功例(ブリヂストン、京セラ、日本たばこ、AEON他)
6. 日本企業によるM&A成功の為の必要条件

エクイティ・ファイナンス



エクイティ・オフリングを実施する際に考慮すべき市場の特性・投資家層について学び、発行ストラクチャーの選定、マーケティング戦略及びそれに伴うドキュメンテーション・プロセスの一連の流れを詳説します。

6/18(水) 10:00~13:00 (3時間)
講師 早川 亮
 元ドイツ証券株式会社 株式会社資本市場部 ディレクター
受講料 31,900円(税込) ※同日午後の"IPO"を受講の方は、合わせて53,900円(税込)

Session 1 45分 エクイティ・オフリングの発行市場

1. 日本株式の市場取引実態
2. 投資家層について
3. 公募増資の発行市場(国内、海外、メリット・デメリット等)
4. オフリング・ストラクチャーの選択肢
5. 投資家層及び投資家ターゲティング
6. 発行スケジュール

Session 2 45分 エクイティ・ファイナンスに関わるドキュメンテーション・プロセス

1. 公募増資発行プロセス及びスケジュール
2. 公募増資における関係者及び役割
3. 目論見書作成、引受契約書等必要書類
4. デューデリジェンス、引受審査プロセス
5. オーバーアロットメント (グリーン・シュー・オプション) の概念
6. 転換社債発行における関係者及び役割、発行日程
7. 転換社債発行スケジュール

Session 3 90分 エクイティ・ファイナンスにおけるマーケティング・プロセス

1. 公募増資におけるマーケティング・プロセス
2. エクイティ・ストーリーの構築とその重要性
3. 企業によるインベスター・リレーションズ(IR)活動の重要性
4. 経営陣によるロードショーの実施
5. 株式セールスによる販売活動及びリサーチ・アナリストの重要性
6. 価格ディスカウント・レンジ
7. ブックビルディング (需要積上げ)、プライシング (発行価格決定) 及び投資家への配分
8. ケーススタディ (JAL、ANA、エルピーダ、マツダ、ヤマダ電機、SBIホールディングス、KDDI、ラウンドワン、出光等)

新規株式公開【IPO】



IPOの意義及びメリット・デメリット、IPO市場の現状、資本政策、上場申請の概要及び公開価格の決定がされるまでのプロセスについて説明します。特に、公開する企業にとって最も重要である公開価格決定及び上場後の株価形成に影響を与える重要な要素を、実務的ケーススタディを通じて解説します。

6/18(水) 14:00~17:00 (3時間)
講師 早川 亮
 元ドイツ証券株式会社 株式会社資本市場部 ディレクター
受講料 31,900円(税込) ※同日午前の"エクイティ・ファイナンス"を受講の方は、合わせて53,900円(税込)

Session 1 60分 新規株式公開の概要

1. IPOの意義、公開価格の重要性、メリット・デメリット
2. 上場市場(プライム、スタンダード、グロース)の特徴及び上場基準
3. オフリング・ストラクチャー、公開価格の重要性
4. 資本政策、演習問題
5. 上場までのスケジュール、公開準備プロジェクト・チームの役割
6. 上場審査手続き、上場申請のスケジュールリング
7. プレ・ディール・リサーチについて

Session 2 75分 価値算定・公開価格決定

1. 公開企業の企業価値のコンセプト
2. DCFモデルによる価値算定
3. 類似企業との比較によるバリュエーション
4. 想定公開価格、仮条件(価格レンジ)、公開価格決定までの流れ
5. エクイティ・ストーリーの構築、経営陣によるロードショーの実施、株式セールスによる販売活動
6. ブックビルディング価格レンジ、公開価格の決定、アフターマーケット
7. ケーススタディ

Session 3 45分 オフリング・ケーススタディ

1. IPOのオフリング概要、オフリング・ストラクチャー、オフリング日程
2. 類似会社、バリュエーション比較
3. 投資家へのプレ・マーケティングの実施、フィードバックの活用
4. 価格レンジの決定、ブックビルディングの実施方法、公開価格決定及び投資家への配分について
5. アフターマーケットの分析

ベンチャーファイナンス



ベンチャー企業躍進の必要性が叫ばれて久しく、日本でもシリコンバレーに追随できるだけの環境が整いつつあります。本講座は資金調達の実践者であるベンチャー企業のCFOから、その基本的な考え方、コーポレートファイナンスとの違い、企業価値の算出方法から、参加投資家の顔ぶれ、具体的な株式発行、ストックオプションの留意点、またEXITとしてのIPO、M&Aなどまで、幅広くかつ最新のケーススタディと合わせ紹介していきます。

7/2(水) 13:00~17:00 (4時間)
講師 小泉 泰郎
 株式会社FiNC Technologies 代表取締役 CEO & CFO
 元 ゴールドマン・サックス証券株式会社 投資銀行部門 資本市場本部共同本部長 兼 マネージング・ディレクター
受講料 39,600円(税込)

Session 1 60分 ベンチャーファイナンスに関する基礎知識

1. ベンチャーファイナンスとコーポレートファイナンスの違い
 - ・財務戦略の重要性 — 財務戦略を強化すると…
 - ・組織戦略 — フェーズ毎の取締役の役割
 - ・市場戦略 — ステージ毎のマーケティング戦略
2. 企業価値算定手法
 - ・インカムアプローチ — DCF法、収益還元法、配当還元法
 - ・マーケットアプローチ — マルチプル法、市場株価法、類似取引比準法
 - ・コストアプローチ — 時価純資産法、簿価純資産法、清算価値法

Session 2 90分 ベンチャー企業特有の価値評価と資金調達におけるプレーヤー

1. ベンチャー企業特有の価値評価
 - ・Forward PER、PE to Growth
 - ・PSR、特殊なメトリクス
 - ・VCメソッド — 上場時の想定価格・必要なリターンを逆算する
 - ・ベンチャーキャピタルメソッド
 - ・各ステージの割引率 — シード、シリーズA、ミドル・レイター
 - ・事業の健全性を表す重要なUnit Economics — パーンレート、MRR、チャーンレート、ライフタイムバリュー、CAC
 - ・ベンチャー投資の黄金律 — 健全なUnit Economicsの指標
 - ・Valuation Reference — 実践編
2. 資金調達におけるプレーヤーの種類
 - ・家族、クラウドファンディング、エンジェル投資家、インキュベーター、ベンチャーキャピタル、日本郵政キャピタル
 - ・コーポレートベンチャーと戦略的提携先
3. 企業発展段階とラウンド戦略
 - ・ラウンド毎の株主構成推移 — CEO、共同ファウンダー、オプションプール、投資家、取締役
 - ・シードラウンド、シリーズA、シリーズB、ファイナルラウンド
 - ・投資家の関心 — 投資家が関心を持つ9つのポイント

Session 3 90分 資金調達プロセスの実際

1. 株式の種類
 - ・普通株式、優先株式、種類株式、転換社債、ストックオプション — メリットと注意点
2. 希薄化の考え方
3. EXIT戦略
 - ・IPO (新規上場)
 - ・M&A (戦略的提携、売却)

オンライン受講(ライブ配信)申し込み手順



お申し込みは日経ビジネススクールの
日経メディアマーケティング株式会社専用 **Web** サイトから

インベストメントバンキング講座

検索

<https://school.nikkei.co.jp/special/invesbank-mm/>

日経メディアマーケティング株式会社は、日経ビジネススクール 金融プロフェッショナルコースの
インベストメント・バンキング講座/ファンドマネジメント講座の運営(一部)ならびに販売を担う営業会社です。

- ▶ お申し込み受付後、事務局から確認のメールをお送りします。
- ▶ お申し込み・ご入金について
 - 各講座指定の方法での入金をお願いいたします。
 - クレジットカード決済は、領収書の発行はできません。代わりにクレジットカード会社が発行する請求明細または申込完了メールおよびマイページの「決済履歴」からダウンロードできる「利用料お支払い明細書」をご利用ください。「利用料お支払い明細書」には、インボイス番号およびお支払金額が記載されています。これらの書面が、勤務先などでの精算にご使用いただけるかは、お客様自身でご確認ください。
 - 法人宛の請求書でのお支払いをご希望の場合は、各講座の申込ページから「複数名受講・代理申込みの方」を選択してお申し込みください。

お申し込みから受講までの流れ

- お申し込み後、講義開催の前日までに受講者用配布資料のダウンロード先を事務局からメールでご案内します。
※講義によっては、配布資料がない場合、また事前には配布せず事後にダウンロードいただく場合もあります。
- 講座実施直前(あるいは当日)に、事務局からメールでZoomへのアクセス方法をお送りします。それに沿い、遅くとも講座開始の5分前には接続を開始し、通信状況を確認してください。通信状況を確認されましたら、必ずマイクをミュートにして講義開始までお待ちください。事前配布の資料は、講義開始までにダウンロードをお願いします。
- ライブ配信講義での講師への質問方法、および講師からの質問に対する反応(挙手など)については、Zoom機能の簡単な使い方とともに、講義開始前にZoom画面でご案内します。また、グループに分かれて意見交換などワークを行う場合があります。その際、Zoomの「ブレイクアウトルーム」を使い、少人数のグループに分かれていただき、各グループごとにワークを進めていただけます。なお、講義中に発言される場合は、ご自身でZoomのミュートを解除してお話ください。
- 講義終了後、事務局からメールにて、アンケートへのご協力をお願いについてご案内します。
※ライブ配信の場合、通信状況やその他の理由により音声や映像が途切れる、画像や音声が乱れる、つながらない、途中で回線が切れてしまうなどのトラブルが発生する可能性があります。あらかじめご承知おきください。
※配信側の通信状況や不具合で接続が安定しない、回線が落ちてしまうなどの場合は、緊急でZoomの接続先を変更することがありますので、講義中は事務局からのメールを受信できるようにしておいてください。

注意事項・その他

<禁止事項>

「日経ビジネススクール利用規約(個人)」記載の内容に加えて次の行為を禁止します。

- 本講座の録音・録画
- 資料の無断複製、第三者への提供
- 本講座のアクセス情報(IDとPW)の第三者との共有、使い回し

<その他注意事項>

- 講座のお振り替えはお受けいたしかねます。
- 講義の内容や資料等の著作権については「著作権について」をご確認ください。

日経ビジネススクール利用規約(個人):

<https://school.nikkei.co.jp/nn/info/tos.html>

著作権について:

<https://school.nikkei.co.jp/nn/info/copyright.html>

解約について

やむを得ず解約される場合は、受講開始日の3営業日前の15:00までに、運営事務局までご連絡ください。解約される場合は、返金手数料2,200円(税込み)をお支払いいただきます。お支払い済みの受講料から返金手数料を控除した金額をご指定の銀行口座に振り込む方法で返金いたします。それ以降の解約はお受けいたしかねます。

- 運営事務局の営業日は、土日祝、国民の休日、年末年始(12/27~1/4)を除く日となります。

お問い合わせは、こちらまで

Tel: 03-6812-8679

Email: nikkei-bs@nex.nikkei.co.jp

日経ビジネススクール運営事務局
株式会社日経イベント・プロ内

受付時間: 営業日の9:30~17:30

<営業日> 土日祝、国民の休日、年末年始(12/27~1/4)を除く日

⚠ 講座開催における個人情報の取り扱いについて

本講座の受講には「日経ビジネススクール利用規約(個人)」が適用されます。ご登録いただいた個人情報は日本経済新聞社および日経メディアマーケティングがそれぞれ直接取得し、それぞれのプライバシーポリシーに従って取り扱います。

- 日本経済新聞社: 「日経IDプライバシーポリシー」及び「日経ビジネススクールにおける個人情報の取扱いについて」
- 日経メディアマーケティング: 「個人情報保護について」

● 日経ビジネススクール利用規約(個人): <https://school.nikkei.co.jp/nn/info/tos.html> ● 日経IDプライバシーポリシー: <https://www.nikkei.com/lounge/privacy/privacy.html> ● 日経ビジネススクールにおける個人情報の取扱いについて: <https://school.nikkei.co.jp/nn/info/privacy.html> ● 日経メディアマーケティング: 個人情報保護について: <https://www.nikkeimm.co.jp/privacy/>